

西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第553号 令和6年9月・10月



令和6.7年度 西多摩医師会新執行部発足

目 次

	目	次	頁	頁
1) 新執行部の発足にあたって	進藤幸雄 … 2	8) 納涼の夕べ	井上大輔 … 17	
2) 新役員の挨拶	広報部 … 3	9) 学術講演会予定	学術部 … 20	
3) 定時社員総会	総務部 … 9	10) 広報だより	菊池 孝 … 21	
4) 保健所だより	西多摩保健所 … 10	11) 理事会報告	広報部 … 25	
5) 専門医に学ぶ	加藤 剛 … 13	12) 会員通知・医師会の動き	事務局 … 27	
6) 糖尿病医療連携検討会からの 今月のメッセージ	大坪尚也 … 15	13) お知らせ	事務局 … 32	
7) 連載企画	小高哲郎 … 16	14) 表紙のことば	事務局 … 33	
		15) あとがき	神應知道 … 33	



新執行部の発足にあたって

一般社団法人 西多摩医師会
会長 進藤幸雄

少子高齢人口減少社会の本格的突入に備えて

日頃より西多摩医師会会務に多大なご協力を賜り、会員の先生方をはじめ、地域の医療・保健・福祉関係者の皆様に深く感謝申し上げます。本年6月の西多摩医師会総会に於きまして、西多摩医師会会長2期目を拝命致しました。

さて、2025年には「団塊の世代」全てが75歳以上となる中で、高齢者が住み慣れた地域で生活を営むことができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供されるよう地域包括ケアシステムが構築されて参りましたが、本格的な少子高齢化の進行により、様々な問題がみえてきております。

国民へのアンケート調査では、約60%の方が最期まで住み慣れた自宅で過ごしたいという希望を持たれております。しかしながら、実際にご自宅で最期を迎える方は11%程度です。実際にご自分の希望通りご自宅で終末期を迎えられる人は10人に一人程度です。その理由は様々ありますが、一つの大きな理由は社会構造の変化です。二世帯、三世帯同居家族は激減し、高齢夫婦のみ世帯、高齢独居世帯が顕著に増加しています。在宅医療が充実してきているとはいえ、家族の役割をすべて代行できるものではありません。要介護状態となった高齢独居者が、十分な支援なく最期まで家で生活することは極めて困難です。

75歳の要介護認定率は15%程度、85歳の要介護認定率は60%程度です。団塊の世代は今後10年かけて要介護認定率60%の集団になります。要介護状態となったからといって、皆が施設に入所する訳ではなく、ほとんどの方は要介護になっても最期まで又はギリギリまで自宅で過ごしたいと望みます。複数の疾患を抱え、複数の社会的問題を抱え、とても不安定な状態で生活を送ることになります。

救急自動車の現場到着所要時間は平成14年当時6.3分でしたが、令和4年には10.3分に、病院収容所要時間は28.8分から47.2分に延伸しています。119番は30分以上も電話が繋がらない事態が発生しています。東京都医師会では、高齢者による救急パンデミックが起きると予想していますが、それは既に始まっており、複数の問題を抱えた高齢者が十分な支援を受けずに不安定な状態で生活していることに起因すると考えられ、今後益々状況は悪化するものと考えています。

この状況を少しでも緩和させる方法は、在宅医療の充実であると考えていますが、東京都の1/4の面積を、人口対比医師数が、東京都平均の約半数の医師数で、都心部にあるような若手医師の潤沢な在宅医療機関もなく、医師の高齢化が進行している地域で、医師の往診を増加させることは極めて困難と考えています。一方、看護師数は医師ほどの偏在は見られず、西多摩医師会では、東京都の在宅医療推進強化事業を利用し、訪問看護の充実と、それを支える医師グループの構築を行い、不安定な在宅療養を少しでも安心して過ごせるよう在宅療養をサポートする事業

を開始しております。在宅医療の仕組みは、まだまだ社会に浸透しておらず、医療者にも十分浸透しているとは言えません。適宜情報を提供して参りますので、可能な限りご協力を賜りたいと考えております。

今一つ、大きな問題と捉えているのが人口減少です。数年前まで、西多摩地域の人口は40万人と言われていました。現在約37万人まで減少し、今後更に減少が見込まれています。西多摩医療圏は8市町村の集合体です。高齢化が進み、人口が減少し、消滅の危機まで囁かれる自治体がある中で、市町村単位で進める医療行政は非効率であり、持続可能性に疑問があります。地域医療構想会議において、人口構造や地域の医療ニーズの変化を見据え、少ない人材でいかに効率よく医療提供体制を構築できるか、医療の機能分化や連携について検討されております。西多摩医師会では、地域医療提供体制懇話会を構築し、年2回8市町村と今後の医療行政につき話し合う場を設けました。ワンチーム、ワン西多摩を合言葉に8市町村と協働し、西多摩地域の医療行政の構築、発展につき話し合いをしております。効率的で質の高い医療提供体制構築を通じ、自然豊かで安心して生活できる西多摩地域の発展に少しでも貢献していきたいと考えております。

西多摩医師会副会長就任のご挨拶



永仁醫院

古川 朋 靖

昨期に続きまして、副会長を拝命いたしました古川です。現体制になりまして二期目となりました。現在の西多摩医師会においては、いくつもの課題がありますが、その中でも今後の西多摩の医療に関する課題が大きな比重を占めるものと思います。ひとつは、高齢化に伴う在宅医療の問題、また、人口減少ならびに医師数減少のための対策などが挙げられます。前者は、高齢の患者さんをどの様にして地域包括ケアに結びつけるか、後者に関しては、八市町村全体として患者さんを診ていくシステム、八市町村行政の枠を超えた医療サービスの提供という課題があると思います。どちらもすぐに結果の出せるものではありませんが、少しずつすすめていかなければなりません。皆様方のご協力も頂けると幸いです。

西多摩医師会副会長就任のご挨拶



医療法人財団 利定会

大久野病院 理事長

進 藤 晃

西多摩における医療提供の現状と未来

医師会活動では、大変お世話になっております。私が日頃から感じている、西多摩地域における医療提供体制の現状と未来へ向けて提案を記載させていただこうと考えて、執筆させていただきます。

西多摩地域は、東京都の中で島嶼部を除いて、唯一現状で人口が減少し高齢化が進んでいく地域です。山間部と都市部を併せ持つていて、東京都における約25%の面積を占め、人口は約3%しかいない地域です。医師数を医師偏在指数で見ると東京都全体が332.8と全国で一番高い指数となっています。西多摩は128.3で、全国335の2次医療圏の中で313位と非常に少ない地域です。病院の病床機能を地域医療構想会議で確認すると、高度急性期は少なく、急性期・回復期はほぼ

充足し、慢性期は過剰となっています。75歳以上の方が、西多摩で医療を完結している率は80%と東京都の中で最も高くなっています。他の地域は、交通手段が豊富で移動しやすいことも要因となっていると考えられます。

この現実を踏まえて、現状で発生していることは、救急パンデミックです。119番に電話しても30分待たされる、救急車が来るとしても20分以上の時間を必要とする。受け入れ先を見つけるために、1時間以上かかる。しかし、最近の病院病床の稼働率は、一部の病院を除いて下がっています。

高齢化が進んでいる、医師数は少ない、圏域で医療は完結している。救急車の出場回数は増えているが、病院病床は空いている。相反する現象が発生しています。この現状を、どのようにお考えになりますか。

私見ですが、1つの要因は在宅医療の充実と考えます。コロナ禍で在宅医療に携わる医師・看護師が技術力をつけたので、入院しても早期の退院が促され、在宅療養では限界まで診ることが出来るようになった。しかし、在宅医や訪問看護に確認すると、言われるほど数は増えていないようです。資金に余裕がある方は、有料老人ホームへ入所していると聞いています。有料老人ホームで医療を受けているので、通常の医療提供システムに影響を与えていないものと考えます。もう1つの要因は、高齢者の知識不足と費用負担ができないことではないかと考えています。高齢者の独居が増えています、要介護状態であるにも関わらず、どうしたら良いのか知識がなく家で頑張れるだけ頑張る。もしくは、知識があっても費用負担ができないために頑張れるだけ頑張る。頑張りきれなくなって、救急車を呼ぶ。救急車で救急病院へ搬送されるが、軽症で疾患ではなく介護目的なので入院できずに帰宅する。救急車の搬送が増えているにも関わらず、病床の稼働は下がり、在宅医療や訪問看護も増えていない。知識不足や費用負担ができないこと、これが原因ではないかと考えています。皆様は、いかががお考えになるでしょうか。

これが原因だと仮定した時に、今後ますます高齢化が進むので、現状よりも悪化していく可能性が高いので対策を考える必要があります。医療提供者が少ない中で、医療提供者全員が一丸となって解決しなければなりません。知識不足や費用負担ができない高齢者であっても、90%の方はかかりつけ医がいると言われています。要介護者やフレイル状態になった高齢者を、何科の医師であっても見かけたら、介護保険に結びつけていただくというのが最良の策ではないかと考えています。介護保険に結びつけていただければ、少なくともケアマネが付き、次に訪問看護の導入や介護の導入が可能です。知識がない方に知識を授けていただくことが出来ます。費用負担ができない場合でも、何らかの策にたどり着ける可能性があります。高齢者人口が増えるので、どこまで効果があるか分かりませんが、ケアマネがついて、訪問看護が入れば救急要請は減る可能性があります。

クリニック・病院に勤務する全ての医師が、独居ではないか、要介護状態になっているのではないかと一瞬でも配慮いただいて、事務の方から地域包括支援センターへご連絡いただければ介護保険へ結びつけることが出来ます。介護保険に結びつくと、医師の意見書などの事務業務は増えるのですが、高齢者が独居で楽に暮らすための手段であり、西多摩の医療提供体制を維持するため、とお考え賜われればと思います。

この考えに基づいて、西多摩における医療提供体制を維持するために、東京都の補助金で在宅医療推進強化事業を進めております。もう1点、西多摩8市町村は、単独自治体で医療を完結することが難しいので、西多摩医師会が主催して自治体の垣根を超えて医療が提供できる体制を整備する西多摩医療提供体制懇話会を開催し、話し合いを始めております。

少子高齢化は、一般社会にのみ発生するのではなく、医療者にも発生します。クリニック・病院勤務の医師・看護師ともに高齢化し、少子化により働き手が減ることが予想されます。全国的にみて医療提供者が少ない西多摩

において、さらにクリニックや病院の閉院が予想されます。対策の開始が遅れていると認識しておりますが、いかがでしょうか。以上、私見と仮定に基づいた原因と対策です、ご一考いただいて、ご協力賜れば幸いですと考えております。

総務部担当理事就任のご挨拶



奥多摩病院

井上大輔

この度、前回に引き続きまして総務部担当理事に就任させていただきました奥多摩病院の井上です。前々回、前回から3期目の理事就任となります。

これまで西多摩の地域医療の推進を心掛けてまいりましたが、力不足の面も多々あり、先生方から教えていただいたり、支えていただいたりしながら、どうにか務めさせていただいているところです。この場を借りて深く御礼申し上げます。

さて、私も50を目の前とする年齢となり、一心不乱に医療に邁進していた頃を懐かしく思うようになってきました。病院で若い医師たちと仕事をしていると、医療への取り組み方や働き方への意識の変化を勉強させてもらうことが多くあります。今年度より本格化した医師の働き方改革は、医師自体の意識の変化がとても大きく、おそらく医療の形自体が相当変わっていくかと予感しております。私の総務部としての役割、世代としての役割として、先生方が築き上げてきてくださった素晴らしい西多摩の医療を維持・発展させていくと共に、“変化”をさせていくことも併せて心掛けてまいりたいと考えております。

進藤幸雄会長の下、先生方の日々の診療を少しでもお支えできるよう今期も頑張ってお参りますので、引き続きの御指導、御鞭撻の程、何卒よろしくごお願い申し上げます。

地域医療部担当部長就任のご挨拶



ゆだクリニック

湯田 淳

この度、西多摩医師会理事として二期目の地域医療部担当部長を拝命いたしましたゆだクリニックの湯田 淳です。あつという間に一期目が終わりましたがこの間、主在宅医療支援活動(地域包括ケアシステム会議、在宅医療強化事業)に取り組んで参りました。これまで一般診療のみ行っていた私にとって非常に新鮮でかつ現在の西多摩地域における最重要課題の一つであると改めて認識できました。まだまだ不勉強な点も多く、諸先輩の御指導、御助言を受けながら今期も継続していきたいと思っております。

また、今年度初頭より、能登半島地震、各地の集中豪雨災害、今後予想される大地震(東南海地震、首都直下型地震)など全国各地で未曾有の災害が起こっています。西多摩地域もいつ何時、災害に見舞われるかもしれません。防災医療についても再度マニュアルを見直し、有事の際に「何ができるのか?何をなすべきか?」を再認識していきたいと思っております。

「為せば成る、為さねば成らぬ、何事も。成らぬは人の為さぬなりけり」(上杉 鷹山)をモットーに頑張っていきたいと思っておりますので今後とも何卒よろしくごお願い申し上げます。

病院部会担当理事就任のご挨拶



市立青梅総合医療センター

副院長 野口 修

前期に引き続き病院部会担当理事を拝命いたしました。三公立病院をはじめ域内の病院と診療所との連携を充実させるべく尽力したいと思っております。どうぞよろしくごお願いいたします。

広報部長就任のご挨拶



ちひろメンタルクリニック

三ツ汐 洋

広報部の担当として、2期目になります。羽村駅前にあるちひろメンタルクリニックの三ツ汐洋です。主にこの西多摩医師会報の編集の仕事を2年間行ってきました。振り返ってみると、いくつもの到らなかったところや、たくさんの先生方に助けられながらやってきたことが思い出されます。この仕事をしてよかったと思えることは、これまで全く存じ上げなかった先生方と交流でき、知り合えたことだと思います。今後もまた、先生方のご協力のもとに、広報の仕事をしていくことになりそうですので、皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。

公衆衛生担当部長就任のご挨拶



新町クリニック

神應 知道

皆さん、2024年度西多摩医師会の新理事に就任させていただきました。新町クリニック院長、青梅市医師会副会長の神應知道（かんおう ともみち）と申します。公衆衛生担当部長を拝命いたしました。精一杯、西多摩地域の住民の方、西多摩医師会のために尽力したいと思っておりますのでどうぞよろしくお願ひ致します。

私は、2000年に北里大学医学部を卒業し、その当時日本一小さい研修指定病院であった埼玉県のみさと健和病院で3年研修を行った後に母校である北里大学の救命救急センターで救急集中治療医として14年勤務した後、2017年に新町クリニックに移動しました。現在は、健診医、産業医、内科外来を行いながら、青梅市医師会の副会長、北里大学医学部、埼玉医科大学の非常勤講師として医学教育にも関わっております。

私が拝命させていただいた公衆衛生部で

は、公衆衛生、予防医療、産業保健、保健所協力事業、たばこ対策を中心に行う予定です。現在、日常的に行っている健診、がん検診、ワクチン、産業保健、禁煙外来、西多摩地域産業保健センターの役割が、そのまま理事としての担当となったことを大変嬉しく思っております。

【公衆衛生の重要性と私のビジョン】

公衆衛生は個々の健康を守るだけでなく、地域社会全体の健康を底上げする重要な役割を担っています。予防医療の普及は、病気の早期発見・予防を進めることで医療費の削減や生活の質の向上に寄与します。特に西多摩地域は高齢化が進んでいるため、住民一人ひとりが健康を維持できる環境づくりがますます重要です。

私のビジョンは、「誰もが安心して健康な生活を送れる社会の実現」です。これを実現するためには、地域全体で連携し、予防医療をさらに推進することが不可欠です。ワクチン接種やがん検診の受診率向上はもちろんのこと、日々の生活習慣の改善や健康教育も総合的に取り組んでいきたいと考えています。

担当範囲に加えて、西多摩地域は東京でも高齢化が進んでいる上に、医療従事者が少ないという特徴を持つ地域です。東京都全体で考えられた施策が必ずしも西多摩にマッチしない場合は、理事の先生方と議論を重ね、新たな形を見出すため尽力いたします。

具体的には、今年度から始まるインフルエンザワクチンに続き、新型コロナウイルスワクチン接種が西多摩8市町村の乗り入れで動き始めました。これにとどまらず、小児ワクチン、HPVワクチン、带状疱疹ワクチン、肺炎球菌ワクチン、RSウイルスワクチンも西多摩地域どこでも接種できる体制づくりを目指します。さらに、西多摩8市町村での健診の乗り入れ事業も実現し、ワクチン接種率やがん検診受診率、その後の精密検査の受診率向上を図ります。また、産業医訪問先の中学校での、メンタルヘルス対策、子宮頸がん予防の授業、がん教育の授業を通じ、小中学生への予防医療の重要性を伝える出張授業の重要性を再認識しております。病気になら

ないマイナス減らしだけでなく、より元気になるプラス増やしを教育現場で広げていきたいと思っております。

私の人生の座右の銘は、「自分で自分の機嫌を取る」と「困ったことは起こらない」の2つで、行動しないことが唯一の失敗というマインドセットで前向きに取り組んでいきたいと思っております。

地域の皆様、医師会の会員の先生方のお力をお借りしながら前に進んでいきますので、引き続きどうぞよろしくお願い致します。

経理部長就任のご挨拶



すみれ小児クリニック

高橋有美

このたび、西多摩医師会の理事に就任いたしました、福生市医師会の高橋有美です。どうぞよろしくお願い致します。

福生市では、母子保健連絡協議会の会長、予防接種健康被害調査委員会の委員を仰せつかり、また毎月、市立青梅総合医療センター小児科にて、地域医療連携小児夜間救急医療に参加しております。今後は西多摩医師会の理事として、微力ながらもこれまで以上に、地域医療に貢献できるよう努めてまいります。

私が開業いたしました二十年以上前は、「かかりつけ医」という概念がまだ一般的ではありませんでしたが、開業時にイメージしていたコンセプトは、今の「かかりつけ医」に近いものでした。

勤務医時代に子育てをする人々が孤軍奮闘する姿を見て、子どもの健全な発育には、子どもの病気を診るだけではなく、子どもの家族のバックアップが必要だと強く感じたからです。

昨今、少子化が騒がれていますが、私が小児科医になった三十年以上前から、少子化が進むことはすでに予見されており、私が学生時代に小児科医になりたいと言うと、子どもは減っていくのだから内科に行くほうが良いと、相談する人皆がそう言いました。そこ

で生粋の天の邪鬼の私は小児科を選ぶことになったのですが……。

これまで私は子育て支援を第一に、できるかぎりあらゆる相談に乗ることを心がけてきました。一般的には医者を受ける相談ではないようなこともしばしばです。あるとき、研修医の先生に私への患者からの相談の話をしたところ、「それは医者がする仕事ですか?」と言われたことがあります。たしかにその意見は真っ当で、本来なら医者ができる仕事ではないのでしょう。

福生市の母子保健連絡協議会には三年前から参加しております。福生市では、妊娠がわかって母子手帳を取りに来たところから、妊娠中、出産、育児にいたるまで途切れなく母子をサポートしています。この会議では市の職員と保健師、医師、歯科医師、助産院院長、保育園園長、民生委員、保健所長が集まり、母子をとりまくあらゆる問題を、総論から個別の件まで話し合います。このような会議で市内在住の子育て家庭を漏れなく把握し、少しでも問題がありそうならサポートするという体制は、私が開業したころにはなかったものです。最近では、発達障害児に最も必要である療育を市が行うようになるなど、行政の子育て支援は、以前では考えられないほど充実してきました。この流れが順調に進み、この社会が人々が苦勞しなくても安心して子育てができるようになれば、私が子どもの病気だけを診る医者になる日が来るのでしょうか。その日まで、たとえ小さくともあゆみを続けてまいります所存です。

学術担当理事就任のご挨拶



まつむらこどもクリニック

松村昌治

いつもお世話になっております。あきる野市のまつむらこどもクリニックの松村昌治です。私が西多摩に引っ越してきたのは11年ほど前で、公立阿伎留医療センターに赴任しました。その後開業して5年経過し、いろいろな臨床の

(8)

経験をさせていただきました。

今回、西多摩医師会の学術担当理事を拝命し、これからは自分だけでなく、医師会員の先生方を通じて社会貢献ができれば大変有り難いと考えております。

まだまだ未熟者ではございますが、ご意見などありましたら、今後に繋げられればと思いますので、何なりとおっしゃっていただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

学校医部・社会保険担当就任のご挨拶



まつもと耳鼻咽喉科
松本 学

このたび西多摩医師会の学校医部と社会保険担当になりました松本です。あきる野市で耳鼻咽喉科を開業しております。

今まで学術と広報の委員をやったことはありますが、今回は全く初めて担当する分野ですので自分に務まるのか不安でいっぱいです。おそらく前任の先生方のようにてきぱきと仕事をこなすのは無理だと思うので、わからないことは前任の先生方に相談したり、お力を借りたりしながらひとつひとつできることからやっっていこうと思っています。

今も実施しているのかはわかりませんが、以前東京都には巡回医療相談という僻地医療対策がありました。伊豆諸島や小笠原などを大学から派遣された医師が巡回して診察するもので、ここ西多摩地域も対象で私も20年ぐらい前まで奥多摩、瑞穂、日の出に何度か診察に来ました。東京都からすると西多摩は僻地という認識なんだと、西多摩出身の自分はショックを受けたことを覚えています。20年経った今も「東京の僻地」という西多摩に対する認識は変わっていないと思います。西多摩8市町村の総人口は約40万人で、地方の中核都市と同じぐらいの規模です。全国平均より高齢者率が高く人口減少のスピードも早い「少産多死」というまさにこれからの日本の状況を先取りした地域であると言え

るでしょう。その西多摩の住民の健康を守るのが医師会の使命ですので、自覚をもって医師会活動に取り組んでまいります。どうぞよろしく願いいたします。

監事就任のご挨拶



近藤医院

近藤之暢

この度監事に就任いたしました近藤です。今回二期目の監事就任です。

これまでの監事就任期間中の約半分は野本正嗣監事亡き後、進藤幸雄会長はじめ理事皆様のお手伝いが出来ていたかどうか自問自答することもありました。

自分なりに納得出来ていると思っている部分と、まだまだ決定事項等に目を光らせておかなければならない部分があると思っています。

基本的には一期目同様、理事会・医師会全体が定款に則した運営をされていくかどうか引き続き見守っていきたいと思っています。

監事就任のご挨拶



内山耳鼻咽喉科医院

宮城真理

この度、監事に選任された宮城です。西多摩医師会理事として6期、12年間務めさせていただきました。監事は初めての役割なので近藤先生のご指導を仰ぎ共に新たな執行部の活動を定款に則していることを確認しながらお手伝いをさせて頂きたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。



2024 年度 西多摩医師会定時社員総会報告

総務部

2024年6月18日(火)午後8時よりフォレストイン昭和館で2024年度定時社員総会が開催されました。進藤幸雄会長による開会挨拶の後、仮議長に神應知道先生が指名され、神應仮議長により議長・副議長・議事録署名人の選任が行われました。議長には玉木一弘先生、副議長には江本浩先生、議事録署名人には三ツ汐洋先生と湯田淳先生が選任されました。会に先立ち物故会員に対する黙祷が行われ、玉木議長の総会開会宣言により議事に入りました。

(資格審査：議場出席28名、委任状による出席112名、合計140名であり、議決権のある社員総数208名の過半数(定足数)105名以上のため総会は成立)

報告事項

2023年度事業報告、2024年度事業計画 井上大輔総務部長より説明

2024年度収支予算 鈴木寿和経理部長より説明

審議事項

第1号議案：2023年度貸借対照表・正味財産増減計算書・財産目録につき承認を求める件
承認

第2号議案：理事候補者を選任する件 承認

第3号議案：監事候補者を選任する件 承認

第4号議案：医道審議会委員候補者を選任する件 承認

玉木議長の閉会宣言により定時社員総会は滞りなく終了し、引き続き2024年度西多摩医師会互助会総会、2024年西多摩医師政治連盟・東京都医師政治連盟西多摩支部総会が進藤幸雄会長を議長として行われ、案件は全て承認されました。古川朋靖副会長による閉会挨拶で総会は無事終了いたしました。本総会の終了をもって、理事会に大変御尽力いただいた理事の下村智先生、鈴木寿和先生、田中克幸先生、津田倫樹先生、土田大介先生が御退任となりました。改めてここに深く感謝申し上げます。総会終了後の臨時理事会により、会長に進藤幸雄先生、副会長に進藤晃先生、古川朋靖先生が選定されました。

その後、短い時間ではございましたが懇親会を開催致しました。進藤幸雄会長による御挨拶、玉木一弘前会長による乾杯の御発声をいただいた後、皆様とのうれしい再会や新しい先生方との出会いなど、対面の交流の良さを改めて実感した次第です。最後には、進藤晃副会長により、皆様の御発展、御健勝を祈念し会を締めくくりました。

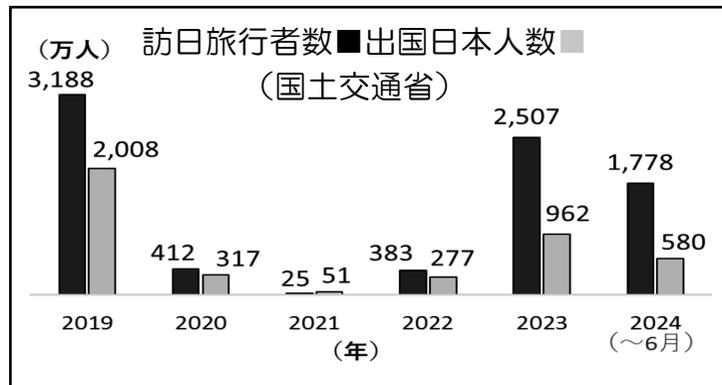
(文責：総務部 井上大輔)

保健所だより

海外からの感染症にどう対応する？

現在、全国的にインバウンドも再活性化し、またコロナ禍で控えていた海外渡航を再開される人々も増えています。感染症が海外から持ち込まれるリスクは常にあります。

西多摩はあまり関係ない？いいえ、そんなことはありません。今回は、日常のご診療の中で先生方に気にかけていただきたい感染症や症候群について、いくつか挙げてみました。



1. 旅行者下痢症

渡航先や帰国後に消化器症状を訴える方は多いですが、渡航先の水の硬度、油や香辛料を含む食事、環境の変化による疲れなどが影響している場合もあります。渡航歴に関わらず、初診時はまず通常の腸管系疾患も鑑別のうえ、ご診療をお願いします。

一方、旅行者下痢症に多い感染症で潜伏期間が1週間以内の病原体は、カンピロバクター、病原性大腸菌（特に腸管毒素原性大腸菌：ETEC）、サルモネラ菌、赤痢菌、ノロウイルス、ロタウイルスなどがあります。



感染症法に基づき、先生方から保健所へ発生届をご提出いただく疾患は限られていますが、便検査で見慣れない病原体が検出された場合、同じ症状の方が急に複数発生した場合など、何かおかしいと感じられた時には、保健所にご相談ください。

2. 渡航中に蚊にかまれた後の発熱など

「渡航先で蚊にかまれて熱がでました！」と患者様から聞かされ、お困りかもしれません。蚊といえば、マラリア、デング熱、ジカ熱。最近はオロプーシェ熱とかいう聞き慣れないものも？最後のものは正確には糠蚊（ヌカカ）という昆虫の媒介で、カ科ではないようです。これらの疾患を疑う場合は、紹介先の病院で検査いただく必要があるかもしれません。迷われたら保健所にご一報を。



3. 麻しん

管内で麻しん患者が発生し、保健所から西多摩医師会に情報提供を行う場合があります。麻しんは今や輸入感染症です。日本は、土着の遺伝子型 D5 の麻しんウイルス株が 2010 年 6 月以降は国内で検出されなくなり、2015 年には WHO 西太平洋事務局から麻しん排除状態と認定されました。仮に渡航歴のある麻しん患者が帰国後に他者に麻しんを感染させても、全国の保健所の疫学調査でその関係性を突き止められる体制にあります。

一方、今後ワクチン接種率が下がれば、集団免疫力が低下し、海外由来のウイルス株が国内で大流行する可能性もあります。日常診療の中で、麻しんを疑う症状を認めた場合は、渡航歴、周囲に麻しんの方がいたか、予防接種歴はどうか、といった情報も必ず聞き取っていただき、IgM 抗体などの血液検査をお願いいたします。

4. 呼吸器感染症... とくに結核

新型コロナの当初が記憶に新しいですが、新興感染症の発生時などは報道も過熱し、行政からの情報発信も活発となるため、医療者の肺炎への意識が高まります。一方、そういった状況でない平時にも、脈々と潜んでいる疾患、それが結核です。

日本は 2021 年に結核低まん延国となりましたが、決して過去の疾患になった訳ではありません。患者は従来の高齢者層だけでなく、近年は若年層にも増えており、外国籍の場合も多いです。管内でも、結核高まん延国から入国され、在日 1 年が過ぎた頃に結核と診断される事例があり、診断前に排菌している期間が長いほど、周囲に結核感染が広がります。結核の診断には、喀痰抗酸菌塗抹検査（診療報酬は 85 点♪）が有用ですので、ぜひご検討下さい。



より詳しい情報は、以下のサイトや文献が参考になります。

厚生労働省検疫所 FORTH

<https://www.forth.go.jp/index.html>

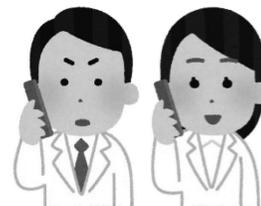
東京都感染症情報センターリンク集

<https://idsc.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/frklink/>

日本感染症学会感染症クイックリファレンス

<https://www.kansensho.or.jp/ref/each.html>

感染症への対応でお困りの場合は、いつでも保健所にご相談ください。



西多摩保健所 医師 村上 邦仁子

保健師活動コラム Vol. 2

～1年目から見た感染症対策業務～

今回は、社会人1年目の新人保健師から感染症対策担当の活動をご紹介します。現在感染症対策担当では、7名の保健師で、感染症、結核、エイズ分野の業務を行っています。

感染症法で規定されている疾患は全数把握が87種、定点把握が26種と計113種もあります。キャサメル森林病や類鼻疽等聞いたこともない疾患も多く、入職したての頃は、全ての疾患を覚えなければと思っていただけとても不安でした。先輩方から「覚える必要はないよ」「少しずつ対応できるようになればいいよ」等、声かけしていただきホッとしました。



入職から3か月間で、結核、腸管出血性大腸菌感染症等の個別事例や高齢者施設・保育園等関係機関からの集団感染報告等への対応、梅毒の普及啓発のためメッセージカードを作成して商業施設に設置を依頼、個人防護具の着脱訓練等、様々な業務を経験しました。日々、想定外のことが起こりますが、緊張半分、楽しみ半分の気持ちで業務に励んでいます。

その中で、私が印象に残った結核の事例をご紹介します。60代男性、既往歴なし、健康診断を15年以上受けておられない方でした。肺結核と診断される8か月前から咳が続いた為、近隣の診療所を受診し抗生剤を処方されました。一時的に症状は軽快しましたが、診断2週間前から咳が悪化、食欲も低下し、再度同じ診療所を受診されました。ある日、通勤途中で体動困難、呼吸不全となり救急搬送され、重症肺炎の診断で即日入院し、肺結核と診断され、結核専門病院へ転院となりました。

この事例から、結核の早期発見の難しさを痛感しました。この事例のほかにも、軽快と悪化を繰り返したり、呼吸器症状がなかったりすることで診断が遅れるというケースが多くあることも、この事例をきっかけに知りました。

特に高齢者の結核患者では、典型的な症状が見られない場合も多くあります。先生方には、呼吸器症状がなくても、発熱（微熱）、食欲不振、体重減少、全身倦怠感等の症状がありましたら、結核も疑って対応いただきますようお願いいたします。

最後になりますが、いつも保健所の問い合わせに丁寧に対応していただき、大変感謝申し上げます。発生届受理後は、お忙しいところ電話して申し訳ないと思いながら、情報収集のため、診断医の外来の時間や、診療所の受付時間等を確認し、先生方の業務に支障がなさそうな時間帯に、電話させていただくよう心がけています。先生方へのお電話の際には色々教えていただき、私自身とても勉強になっています。今はまだ分からないことも多いですが、先輩方からのご指導の下、対象者の気持ちに寄り添った支援のできる保健師に早くなれるよう、日々業務に取り組んでいます。今後ともよろしく願いいたします。



専門医に学ぶ 第168回

当院におけるハイブリッド手術室 CT ナビゲーション下脊椎手術導入について

市立青梅総合医療センター 整形外科部長 加藤 剛

【はじめに】 当センターでは、2023年11月の新病院開設に際して、手術室に移動式のコーンビーム CT を持つ血管造影 X 線診断装置を統合させ、高画質な透視・3D 撮影を行うことができるオペレーションシステム：ハイブリッド手術室（Philips 社 Azurion および GETINGE 手術台）を導入しました（写真 1）。ハイブリッド手術室では、より解像度の高い画像を撮ってそれを見ながら手術ができるため、循環器内科と心臓血管外科の経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）、ステントグラフト内挿術などが実施されますが、われわれ整形外科においても、より高精度で低侵襲、安全性、確実性を追求した脊椎手術にも使用されます。本稿では、脊椎手術における当センターのハイブリッド手術室の運用についてご紹介します。

【対象】 当科では、腰部脊柱管狭窄症、頸椎症性脊髄症、腰椎椎間板ヘルニアなどの変性疾患、頸椎後縦靭帯骨化症、脊柱後側弯症、化膿性脊椎炎、脊髄腫瘍、転移性脊椎腫瘍などの特殊疾患、そして、脊椎破裂骨折、骨粗鬆症性椎体骨折などの外傷に至るまで、年間 200 例を超える脊椎手術を行っています。

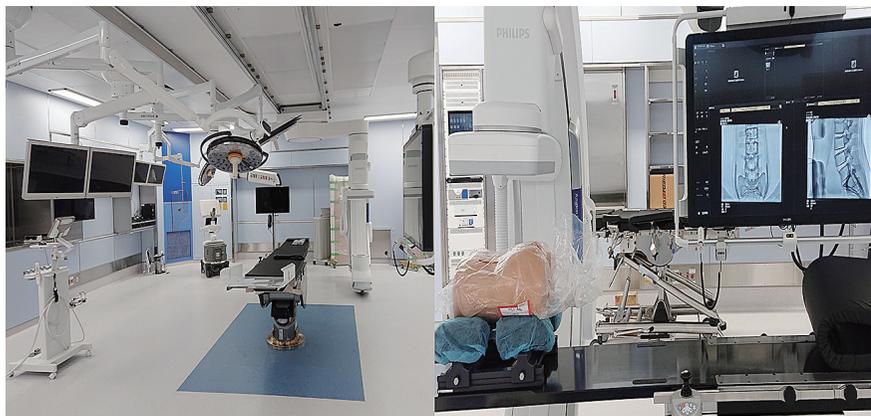
脊椎手術では、組織が深部にあるだけでなく血管や脊髄神経が近くにあり、より安全で正確な手術が求められます。術中にレントゲン透視を必要としますが、頸椎椎弓根スクリュー、上位胸椎椎弓根スクリュー、骨盤スクリューなどの挿入では、レントゲン透視では見にくい、見えない、しかも挿入部位に 1mm 単位のピンポイントの正確性が求められることもあり、非常に高い技術と経験を要し、現実的に正確な手術が難しいと判断されて回避せざるを得なかった症例も存在しました。

当院には以前より、コンピュータ支援手術補助技術として代表的なナビゲーションシステム（Medtronic 社 StealthStation S8 システム）があり、稀に使用していました。ナビゲーションシステムとは、手術中に操作している手術器具と実際の患者の骨との 3 次元的位置関係をモニター上に表示する技術です。対象とする骨と手術器具の各々の 3 次元的位置情報が、光学方式のステレオカメラによって認識され、その空間的位置を確認しながら正確に操作できるようになります。今回のハイブリッド手術室では、これまでの事前 CT 撮影による連動とは異なり、術中リアルタイムの体位での脊椎アライメントを反映した CT 画像を直接リンクしてナビゲーションシステムと連動できるようになり、高精度画像下であるだけでなく、正確性も格段に向上した「3D イメージング CT ナビゲーション下脊椎手術」が可能となったのです（写真 2）。

【結果】 2023 年 11 月から 2024 年 6 月のハイブリッド手術室利用は 50 例（CT 使用 14 例）で、うち当科での 3D イメージング CT ナビゲーション下脊椎手術が 12 例でした。頸椎・胸椎損傷、頸椎・胸椎転移性脊椎腫瘍、腰椎椎体骨折後変形治療などに対し実施し、高難度の頸椎・胸椎椎弓根スクリューや骨盤スクリューを 60 本以上問題なく挿入してきました（写真 3）。非常に細かい椎弓根や、圧潰などで強く変形した椎弓根へのスクリュー固定を要したこれら高難度手術症例にも良い術後成績が得られました。治療の精度と安全性の向上に本システムは非常に有効であり、これからも多くの症例に良い適応となると考えています。

【考察】 近年の手術技術の進歩は目覚ましく、当センターも新病院開設とともに導入した「ハイブリッド手術室」「ロボット手術」を新しい特色としています。脊椎手術での導入にあたり、他院での実施情報の収集、実際の手術時のコーンビーム CT の動きと患者体位の調整、麻酔器や手術台の位置の確認、必要なナビゲーション連動手術器具の選定と導入、放射線科や手術室看護師との手術シミュレーション、手術室内配置や感染対策など、相当な準備、検討、工夫を要しましたが、症例を重ねながら、各部署との連携も含め確立された手技となったと考えています。今後もこのハイブリッド手術室を用いて行う、安全で、適切で、正確で、効果的な脊椎脊髄手術治療をより広い患者さんに提供できるよう精進して参ります。

近隣の先生方とのより一層の連携のほど、よろしくお願い申し上げます。



【写真 1】



【写真 2】



【写真 3】

糖尿病医療連携検討会からの今月のメッセージ

西多摩地域糖尿病医療連携検討会

平素より当検討会事業にご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。当検討会では2018年度より会員の皆様に、医師会報を通して糖尿病診療に役立つヒントを得て頂ければと願い「糖尿病診療を再考する症例」をテーマに【糖尿病専門医による症例提示】を企画しております。

今回は、市立青梅総合医療センター 内分泌糖尿病内科 大坪尚也先生に症例提示をお願い致しました。

今年度も糖尿病専門医による示唆に富む症例を提示していく予定です。(9・10月号、11・12月号、3・4月号)皆様の日頃の糖尿病診療の一助となりましたら幸いに存じます。

【SU薬内服下での低血糖脳症2例を通して】

市立青梅総合医療センター 内分泌糖尿病内科 大坪尚也

<症例①> 82歳女性

【経口血糖降下薬 (A 医院より)】グリメピリド 3mg, ピオグリタゾン 15mg, ビルダグリプチン 100 mg
 【主訴】意識障害【現病歴】X-2日はいつも通りの様子だった。X日にデイサービスに来なかったため息子が様子を見に行ったところ、自宅で倒れていたため救急要請。当院搬送時、GCS E1V1M1, 血糖 41 mg/dL, HbA1c 6.5%. CT 検査で誤嚥性肺炎の所見あり。緊急入院の上でブドウ糖の点滴開始。血糖上昇後も昏睡状態が続いたため脳MRI, 脳波検査を施行し、低血糖脳症の診断に至った。療養型病院へ転院予定だったが、入院 31 日目に呼吸状態が悪化し死亡退院。

<症例②> 80歳男性

【経口血糖降下薬 (B 医院より)】グリメピリド 1.5 mg, メトホルミン 500 mg
 【主訴】意識障害【現病歴】有料老人ホーム入居中。X-1日に低血糖で救急医療機関へ搬送。ブドウ糖投与で意識状態改善したため帰宅。就寝後、X日朝に施設職員が様子を見に行ったところ、呼びかけに反応せず、血糖測定を行い血糖 25 mg/dL のため当院へ救急搬送。GCS E1V1M1, ただちにブドウ糖投与し血糖 130 mg/dL となるも、意識状態改善せず当科へ緊急入院。HbA1c は 4.9% であった。脳MRI では拡散強調画像で広範な高信号域を認め、低血糖脳症の診断となった。CT 検査で誤嚥性肺炎の所見あり抗生物質開始。療養型病院へ転院の予定。

【総評】SU薬(スルホニルウレア薬)内服下での低血糖搬送症例は後を絶たない。SU薬は重症低血糖を起こしうる代表的な薬剤であり、漫然と処方されるべき薬剤ではない。このような低血糖搬送事例がなくなるよう、日本糖尿病学会は高齢者のHbA1c管理目標を個々に設定しており、今一度参照されたい。

高齢者のSU薬内服例では、HbA1c 6.5%はむしろ危険であるという認識を強く持つ必要がある。

SU薬の一覧(漫然とdo処方していないか今一度確認を)

一般名	商品名
グリベンクラミド	オイグルコン®、ダオニール®
グリクラジド	グリミクロン®, グリミクロン HA®
グリメピリド	アマリール®

クリニックにおける PALS

あきるの杜きずなクリニック 小高 哲郎

このたび、3回目の広報委員に就任し、3回目の連載企画を執筆することになりました。1回目の就任時から、小児外科関連の記事を書いていたこともあり、今回はPALS (Pediatric Advanced Life Support ; 小児二次救命処置法) をテーマにしてみました。

7月の土曜日、夕方の診療を終えた私は、特急あずさに乗り、松本に向かいました。翌日の日曜日に相澤病院で行われるPALSのアップデートコースを受けるためです。PALSのアップデートコースは、コロナの影響やその後も東京での開催日程が合わず、4年間受けていませんでしたが、特例での更新を認める案内が来たこともあり、信州の山々や相澤病院を見てみたいという意図もあり、相澤病院での受講を決めました。

東大の小児外科医局に在籍中に、医局が小児救急医学会を主催することになり、PALSのコースを開催期間中に実施するため、PALSのコースを受けるよう指示されたのが最初でした。ただ、大学病院の小児外科は、たいてい他の小児科で診断された症例に対して治療する場であり、当時の自分はPALSがあまり有用なものと思えませんでした。その後、埼玉医大の小児外科に赴任後は、小児BLSのインストラクターをやることになり、PALSを継続することになりましたが、やはり、あまり実地臨床では活かせない資格のように思っていました。

PALSは2年ごとにアップデートコースを受講する必要がある、最初はまじめに2年経つと受講していました。クリニックを開院後も、PALSのアップデートコースを一度東京で受講しましたが、あまり役立ったという印象はなく、「もう更新しなくてもいいかな」と思っていました。

PALSにおいては、まず患者の状態を初期評価において「良い」「悪い」「蘇生が必要」の3つで判断し、一次評価において問題点を「呼吸器系」「循環器系」のどちらにあるかを判断し、二次評価でより細かい診断へと近づけていきます。

久々にPALSを勉強してみると、クリニックではとても役に立つものであることが分かりました。例えば、具合の悪い子が、あまり情報のない中、医師と看護師で対応するという設定ですが、これは大病院というよりはクリニックを意識した状況です。他の患者さんも待っている中、混乱した状況の中で、具合の悪い子をいかに早期に評価し、適切な治療につなげていくことは本当に大変です。診断はつかなくても、十分な検査はできなくても、戸惑っている暇はなく、診療を前に進めていくにはPALSはとても有用だと思いました。受講生は、長野県内の小児病院や総合病院の若い先生ばかりでしたが、初心にもどって勉強することができました。

1日の講習会で、松本の観光はできませんでしたが、小児救急診療への思いがとても強くすることができた、充実した週末を送ることができました。

2024年度 西多摩医師会互助会「納涼の夕べ」報告

2024年7月10日（水）午後7時30分より、昭和の森フォレストイン昭和館で西多摩医師会互助会主催の「納涼の夕べ」が開催されました。コロナ禍のため令和元年を最後に中止となっていました。昨今の情勢を鑑みて久方ぶりの通常通りの開催となりました。正会員27名、準会員52名、ゲスト3名（西多摩訪問看護ステーション協会）の総勢82名のご参加をいただき大変盛況な会となりました。僭越ながら、司会進行は私、井上が務めさせていただきました。

まず始めに会長 進藤幸雄先生より開会の御挨拶をいただいた後、前会長の玉木一弘先生に乾杯の御発声を頂戴し、会が開始されました。まず会長企画として、西多摩訪問看護ステーション協会の皆様より『訪問看護ステーション「在宅医療推進強化事業」紹介』の御発表があり、大変勉強をさせていただきました。

続いて、国立音楽大学学生さんによるモーツァルト「クラリネット五重奏曲」の素晴らしい演奏の中、御歓談の時間です。久しぶりの対面の交流に、美味しいお料理やお酒を楽しむのを思わず忘れてしまうほど、皆様お話を華が咲いていらっしゃる御様子でした。

次に、三公立病院長の御挨拶として、市立青梅総合医療センター院長 大友建一郎先生、公立福生病院院長 吉田英彰先生、公立阿伎留医療センター副院長 樫田光夫先生より御挨拶をいただきました。その後、西多摩各地区の病院の先生方から、現状報告や御挨拶をいただきました。時にはユーモアを交えたお話を笑みをこぼしながら、時には新しい発展への挑戦のお話にはほほおと感嘆しながら、皆様の日々の御尽力を感じる楽しいひと時でした。

せっかくお集まりくださった皆様に少しでも楽しんでいただこうと、賞品抽選会を企画致しました。豪華景品の数々に、当たった先生は満面の笑みを浮かべ、外れた方は次こそはと意気込みながら固唾を飲んで舞台の抽選箱を見守っていました（番号札を引く私の手も緊張のあまり思わず震えておりました）。賞品のプレゼンターは副会長 進藤晃先生にお願い致しました。中には両手いっぱい大きな賞品を抱えながらも、お顔は大変うれしそうな先生もいらっしゃいました。

楽しい時間ほど早く過ぎてしまうもの、惜しむ声も多数ある中で会は終焉を迎えます。閉宴のご挨拶を副会長 古川朋靖先生からいただき、またの皆様との再会を固くお約束して会は終了となりました。

なお、本会の準備、運営、進行に際しては西多摩医師会役員を始めとした諸先生方、また医師会事務局スタッフの皆様にご多大な御協力を頂きました。心より御礼申し上げます。来年以降は、フォレストイン昭和館が閉館となってしまうため、形を変えながらとなりますが、皆様との交流を図るべく開催を考えて参りたいと思いますので、会員の皆様、何卒よろしく願い申し上げます。

報告：総務部長 井上 大輔



会長挨拶



乾杯



司会



訪問看護



演奏



歓談 1



歓談 2



市立青梅総合医療センター院長



公立福生病院院長



公立阿伎留医療センター副院長



青梅今井病院



多摩リハビリテーション病院



目白第2病院



市立青梅総合医療センター



公立福生病院



公立阿伎留医療センター



福引 1 等



福引 2 等



福引 3 等



閉 会



◇学術講演会予定

令和 6. 8. 16

開催日	開始～終了 時間	会 場	単 位 数	CC	集会名称・演題	講師（役職・氏名）
10/11 (金)	19:30 ～ 20:00	【Web 講演】	0.5	12	学術講演会 演題「最終ステージに入ったC型 肝炎治療～病診連携の重要性～」 (仮)	市立青梅総合医療センター 副院長 消化器内科 野口 修 先生
10/16 (水)	19:30 ～ 20:40	Web 配信 (Teams) 又は、 市立青梅総合 医療センター	1		学術講演会 「第22回西多摩高血圧カンファレンス」 【一般講演】 演題「未定」 【特別講演】 演題「未定」	座長：梅郷診療所 院長 江本浩先生 市立青梅総合医療センター 循環器内科 坂本 達哉 先生 座長：市立青梅総合医療センター 循環器内科部長 小野 裕一 先生 大西内科ハートクリニック 院長 大西勝也 先生
10/17 (木)	19:30 ～ 20:15	【Web 講演】	0.5	10	学術講演会 テーマ：B型肝炎 演題「B型肝炎ウイルス再活性化 と対策 - 化学療法、ステロイド 治療に潜む危険性 -」 演題「当院のHBV再活性化対策」	市立青梅総合医療センター 副院長 消化器内科 野口 修 先生 市立青梅総合医療センター 薬剤部主査 細谷 嘉幸 先生

「聴こえ 8030 運動」 運動について

きくち耳鼻咽喉科クリニック 菊池 孝

1. はじめに

「8020（ハチマルニイマル）運動」をご存知でしょうか？これは「80歳になっても自分の歯を20本以上保とう」という運動です。平成元年（1989年）に厚生省（当時）と日本歯科医師会が提唱して開始されました。8020（運動が開始された当初、「8020」を達成している高齢者（後期高齢者：75歳以上）は10%以下という状況でした。しかしその後「8020」達成者の割合は増加し、最新の全国調査（平成28年歯科疾患実態調査）では、75～84歳の51%が達成していることが示されています。啓蒙運動が成功していると考えます。



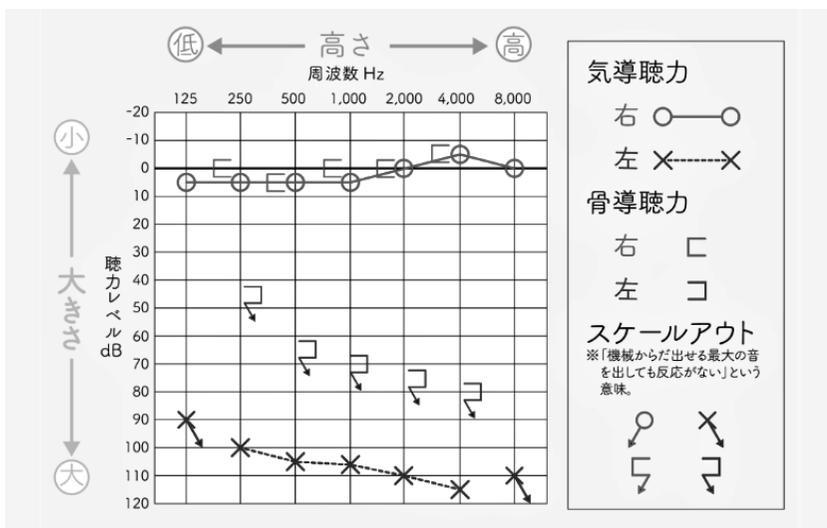
[7] 厚生労働省歯科疾患実態調査より

2. 「聴こえ 8030 ハチマルサンマル）運動」について

私の所属する日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会では、上記の「8020運動」に倣ってこの秋から「聴こえ 8030 運動」を行うことになりました。「聴こえ 8030 運動」は分かり易い数値目標として、「80歳で30dBの聴力を保とう！」を国民に広く啓発する運動です。これは視力で考えていただくと分かりやすいと思います。視力の場合、視力検査表の一番小さいCマーク（ランドルト環）が見える状態が視力2.0です。視力検査表の一番上の大きなCマークが見えれば視力0.1以上になります。小さいマークが見える状態が視力の良い状態です。2.0の方が視力がよくて数字が0.1の方に小さくなる方が視力は悪くなります。そして一般に近眼、老眼、乱視等で裸眼視力が悪くなれば放置しないでそれを改善するためにメガネ、コンタクト、手術などで視力の矯正を行うと思います。裸眼視力が悪くても、矯正視力で1.0を保つことができれば日常生活において不自由することは少ないと考えます。

聴力は聴力検査表（オージオグラム）を用いて示します。オージオグラムは、縦軸と横軸の2

つの要素を表すグラフです。縦軸は「音の大きさ（音量・デシベル dB）」を表し、上に行くほど音が小さく、下に行くほど大きくなります。横軸は「音の高さ（周波数・Hz）」を表し、左端は低い音（ボー）、右側は高い音（ピー）を表しています。オーディオグラムの結果に基づいて平均聴力が求められます。平均聴力は聴力レベル（dB）で表され、日常会話で使われる 500Hz～2000Hz の聴力を特に重視した 4 分法 $((500\text{Hz} + (1000\text{Hz} \times 2) + 2000\text{Hz}) \div 4)$ などの計算式で算出されます。4 分法で平均聴力が 25dB 未満であれば聴力に異常はなく正常値であると言えます。25dB 以上 40dB 未満は軽度難聴、40dB 以上 70dB 未満は中等度難聴、70dB 以上 90dB 未満は高度難聴、90dB 以上は重度難聴と判断されます。数値が小さい方が聴こえは良く、数字が大きくなるほど聴こえは悪くなります。



縦軸：音の大きさ（単位：db デシベル）
 上に行くほど、小さな音でも聞こえる。下に行くほど、大きい音でないと聞こえない。
 横軸：音の高さ（単位：横軸：Hz ヘルツ）
 125Hz～8000Hz まで1 オクターブずつ、7つの音の高さで検査をする。

出典：「きこいる」HP より（左耳感音性難聴の例）

3. 「聴こえ 8030 運動」の目的と対策

この活動は難聴に対する啓蒙運動になります。大きく2つのアプローチに別れます。

1) 加齢性難聴に対する対策

高齢者が人口の3割に迫っている本邦の超高齢社会において、加齢性難聴対策は重要な課題です。加齢性難聴者数は本邦で約1,500万人と推計されています。しかし適切な聴覚検査により難聴の診断を受けている高齢者は少数です。徐々に進行する難聴を仕方ないものとして見過ごしている現状があります。また、難聴の自覚症状があっても、難聴は疾病として捉えられていません。視力が悪化すれば眼科を受診し視力矯正を行うように、これからは、「加齢性難聴は疾病」であると捉え、聴覚健診、進行予防や補聴器・人工内耳など適切な人工聴覚器対応が必要であることを高齢者に広く啓蒙していくアプローチです。補聴器や人工内耳により30dBの装用閾値を確保し、健康寿命をサポートするのが目的です。

2) 「8020 運動」のように正常聴力をなるべく残す運動になります。加齢以外の原因で生じる難聴の進行を予防するアプローチになります。

①職業性騒音性難聴：騒音職場に従事し、業務に伴う騒音にさらされることによって生じる職業的難聴の進行を予防する活動。

②非職業性騒音性難聴：業務とは関係なく、自らの趣味あるいはレクリエーション目的で大きな音を習慣的に聞く場合。例えば大音量のコンサート会場等で生じる音響外傷。それと近年問題になっているヘッドホン・イヤホン等による音響性聴器障害を予防する活動。

4. 今後の予定

1) 加齢性難聴に対して

現状、80歳で30dBの聴力達成率は30%程度です。70歳以上の63%に加齢性難聴を認めるとする報告があるため、65歳の高齢者になれば耳鼻咽喉科を受診し聴覚検査を行うことが必要であることを啓蒙します。そこで30dBの聴力が保たれていれば、80歳まで難聴進行予防の指導と1回/年の定期聴力検査を実施します。聴力健診時に難聴を認めれば、補聴器を導入することで30dBの装用閾値を保ち、高齢者の健康寿命をサポートします。

2) 加齢性以外の難聴に対して

①職業性騒音性難聴に対しては耳栓などの騒音を遮蔽する器具の装着を必須とすることが難聴の進行を予防することになります。騒音下では耳栓を装着する、騒音の大きさによっては防音型のイヤマフを装着するなどの対策が望まれます。例えばF1のようなモータースポーツに従事する場合、爆音のようなエンジン音が響くピットで作業する場合は防音型のヘッドホンにインカムがついていて、ヘッドホンをしたままで会話しています。ヘッドホンをとった瞬間に爆音で耳がやられるからです。そのような遮音対策が必要になります。

②非職業性騒音性難聴に対しては2パターン考えられます。まずコンサートの場合は先の職業性騒音性難聴と同じですのでまず耳栓の装着です。低音が強調された音圧が大きい音を浴びた場合、会場から出ても耳がキーンとした感じになる時があります。その場合は音響外傷を生じていることが多いで、症状が継続する場合は耳鼻咽喉科の受診をお勧めします。そうならないように耳栓の装着が重要です。次にヘッドホン・イヤホン難聴のリスクから耳を守るためには、何より大音量にさらされる機会を減らすことが非常に大切になります。世界保健機関(WHO)と国際電気通信連合(ITU)は2019年2月に連名で、安全な音量と聴取時間の上限についてのガイドラインを示しました。それは「音量は80dB(子どもは75dB)まで、1週間に40時間まで」となります。さらにWHOでは、ヘッドホンやイヤホンで音楽を聞くときの注意点として、以下を推奨しています。

① 音量を小さくし、連続して聞かずに休憩をはさむ。

② 使用を1日1時間未満に制限する。

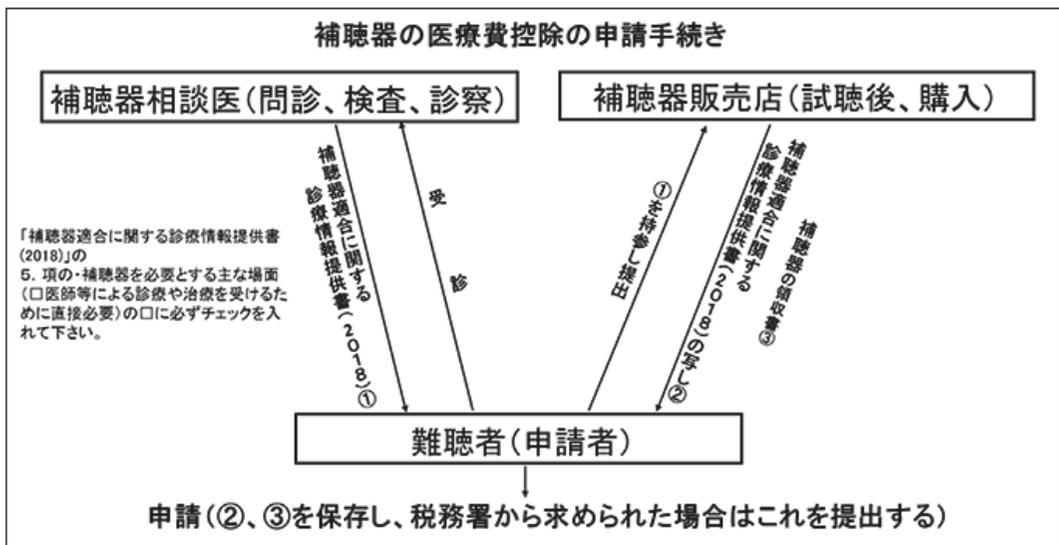
③ 周囲の騒音を低減する;「ノイズキャンセリング機能」のついたヘッドホン・イヤホンを選ぶ。

5. おわりに

超高齢化社会で今後さらに加齢による難聴は増加すると考えられます。それとあわせてスマホとワイヤレスイヤホンなどの普及によって、音量を上げた状態で長時間音楽等を聞いているとか

ゲームに熱中していると加齢とは別に若いうちから難聴が進行する方が増加していく懸念があります。難聴を放置しておくとう認知症が進むという報告もあります。まず加齢以外の難聴を予防すること。たとえ難聴になってもその状況を放置せず、視力が悪くなったらメガネ等で矯正するように、難聴になったら補聴器等を使用して聴こえて不自由しない生活を過ごせるようになることが目的です。

ちなみに補聴器は高いイメージがあります。確かに片側 10 万円、両側で 20 万円くらいかかります。ただ高価な補聴器が良く聞こえるわけではありません。無理して 40～50 万円もする高価な補聴器を購入する必要はありません。基本性能は上記の価格で十分あります。高価になると多機能になり高齢者の方は使いこなせない場合があります。補聴器を購入する場合は、直接補聴器店に行って購入するのではなく、まずは耳鼻咽喉科を受診するようにして下さい。耳鼻咽喉科から補聴器店に紹介する「補聴器適合に関する診療情報提供書(2018)」を記入します。この記入に際してお金はかかりません。補聴器店に行かれるときはその情報提供書を持参していただいて、その上で補聴器店と相談の上購入する流れになります。この手続きを行っておけば翌年の確定申告時に医療費控除になる場合があります。ただし医療費控除になるかどうかは税務署の判断になります。またこの場合、対象となる補聴器店は「認定補聴器技能者」がいるお店か、「認定補聴器専門店」の資格をとっているお店になります。補聴器を販売しているお店ならどこでもいいわけではありません。



補聴器の購入に際し、青梅市では今後「青梅市高齢者補聴器購入費助成金事業」が始まります。この対象になる方は①青梅市住所を有する満 65 歳以上の方、②中等度難聴(40dB 以上 70dB 未満)の方などの条件があります。該当する方は補聴器の購入費(上限 40,000 円)の助成を受けることができます。そのためには耳鼻咽喉科を受診して、申請書に記入が必要となります。詳細は近々青梅市の方から通知があると思いますのでお待ち下さい。

理事会報告

★ Information

6月定例理事会

令和6年6月25日(火)

西多摩医師会館

(出席者:進藤(幸)・古川・進藤(晃)・井上・三ツ汐・湯田・野口・神應・松本・高橋・近藤・宮城)

【1】報告事項

(1) 都医地区医師会長連絡協議会報告

資料により、6/21に開催された標記協議会における都医からの伝達事項等について

(2) 各部報告

特になし

(3) 地区会報告(各地区理事):

特になし

【2】報告承認事項

(1) 入退会会員、会員異動について

資料により、正会員1名、準会員2名の入会申請が紹介・報告され可決承認された
また、正会員1名の退会及び異動届2件が紹介・報告された

【3】協議事項

1. 西多摩医師会共催名義の使用について(申請)

2. 地域包括ケアシステム連携事業 医療・介護関係者研修の講師推薦について(依頼)

資料により、西多摩広域行政圏協議会からの上記申請・依頼内容について説明され、共催名義の使用申請は使用を許可し、研修の講師推薦依頼は要望通り進藤会長を推薦することが可決承認された

【4】その他

第2回インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症予防接種に関する打ち合わせ(6/20)について

資料により、標記行政との打ち合わせ内容等が説明・報告され、以下の3点について当会としての対応等を協議

* 高齢者インフル接種に係る委託費等は例年と同じでよいか

行政で承諾された委託料が、例年通り三者協単価(事務費を含む)に30円を加算したものであり承認する

* 高齢者コロナワクチン接種に係る委託費は三者協単価(事務費は除く)に準じてよいか 交渉の経緯より行政の要望である三者協単価(事務費は除く)に準じることを了承する

* 委託契約書の一本化(案)は可能か

実施期間・スキーム・委託単価等異なるので委託契約書の本一本化はしないでそれぞれの契約とする

7月定例理事会

令和6年7月9日(火)

西多摩医師会館

(出席者：進藤(幸)・古川・進藤(晃)・井上・三ツ汐・湯田・野口・神應・松本・松村・高橋・近藤・宮城)

【1】報告事項

(1) 各部報告

特になし

(2) 地区会報告(各地区理事)：

あきる野市 7/8 理事会開催

【2】報告承認事項

(1) 入退会会員、会員異動について

資料により、正会員1名・準会員4名の退会が紹介・報告された

(2) 令和6年度高齢者インフルエンザ予防接種事業について(要望)

(3) 令和6年度新型コロナウイルスワクチン感染症予防接種事業について(要望)

行政からの上記2件に係る要望(資料)について、内容が今までの交渉経緯と同じ内容であることを確認し、要望事項について承認することとした

【3】協議事項

特になし

【4】その他

1. 新体制の職務分掌について

資料により、新体制における各理事の職務分掌が発表・説明された

7月移動理事会

令和6年7月23日(火)

プチクール・ダルジャン

(出席者：進藤(幸)・古川・井上・三ツ汐・湯田・野口・神應・松本・松村・高橋・近藤・宮城)

【1】報告事項

(1) 都医地区医師会長連絡協議会報告

資料により、7/19に開催された標記協議会における都医からの伝達事項等について

(2) 各部報告

学術部：9/4・5のどちらかでコロナワクチンに係る説明会を開催予定

(3) 地区会報告(各地区理事)：

特になし

(4) その他報告

新型コロナワクチン八市町村乗り入れに関する進捗状況について

秋からのインフルエンザ・新型コロナのワクチン接種に係る行政が策定した予診票・接種済証(資料)について紹介・報告

【2】報告承認事項

- (1) 入退会会員、会員異動について
該当なし

【3】協議事項

1. 「西多摩医師会講演会後援名義使用承認事務取扱規程」について

総務担当理事より資料（標記規程案）が示され、9月の理事会にて会務運営規程に定めたいが、今日検討・協議は時間的に無理なので各理事に持ち帰り検討が依頼された

【4】その他

特になし

会員通知

- 会報7-8月号
- 宿日直表（青梅・福生・阿伎留）8月より西多摩医師会ホームページへ掲載開始（西多摩医師会HP上（<https://nishitama-med.or.jp/>）会員ページ、会員メニュー内（会員専用）に掲載）
- 学術講演会（8/7、8/31）
- 産業医研修会（東邦大学医師会 9/29）
- “ ” （順天堂大学医師会 10/19）
- “ ” （東京医科大学医師会 12/21）
- 令和6年度（第98回）多摩医学会研究発表講演会「演題募集（一般演題）（特集演題）」のご案内
- 令和6年度第1回西多摩医師会地域包括ケアシステム推進講座開催案内（9/2）
- 令和6年度第2期西多摩医師会諸会費請求書
- 令和6年度西多摩医師会館「糖尿病教室」「個別栄養相談」（7月～3月）開催案内
- 妊産婦における劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）について
- 「東京都医師会雑誌令和7年1月号（新春随想集）」について（依頼）
- 西多摩保健所より 管内における麻しん患者の発生について
- 西多摩地域広域行政圏協議会より 令和6年度地域包括ケアシステム連携事業 医療・介護関係者講演会「入退院支援における多職種連携」（11/13）開催案内
- 市立青梅総合医療センターより 地域医療連携懇話会（7/31）開催案内
- 公立阿伎留医療センターより 令和6年度第2回感染対策向上加算・地域連携合同カンファレンス開催（7/16）
- 東京都立小児総合医療センターより 耳鼻いんこう科の診療体制について
- 「2025年版医師日記（手帳）」の斡旋について
- 不要になった水銀血圧計・水銀体温計・水銀温度計の自主回収の実施について
- 三公立病院『宿日直表』ホームページ掲載のお知らせ
- 「令和6年度診療報酬改定に関するアンケート調査」の実施について（協力依頼）
- 「がん治療連携指導料」の施設基準届出に係る連携保険医療機関の新規追加及び届出内容の変更等について（令和6年10月1日算定）
- 西多摩医師会新型コロナワクチン勉強会（9/4）開催案内及びアンケート
- 後期高齢者医療被保険者証の一斉更新に伴う周知用ポスター
- 東京都立小児総合医療センター「2024診療のご案内」
- 保健所だより
- 乳**マル乳、**子**マル子、**青**マル青にかかるポスター掲示について（依頼）
- 令和6年度外国人未払医療費補てん事業の御案内
- 「がん征圧月間」ポスター
- 糖尿病患者さんと糖尿病予備群の方のための「糖尿病1日教室（於：公立福生病院）」

- (9/14) チラシ
- 学校医会報
 - 「歯周病検診マニュアル 2023」の送付について
 - 「東京都新型コロナウイルス感染対策カンファレンス」周知依頼について
 - 都内における手足口病の流行に係る情報提供等について
 - ジェネリック医薬品差額通知及び啓発リーフレット（第1回）の送付に伴う周知について
 - 特別用途食品（経口補水液）に関する普及啓発資材の活用について（周知依頼）
 - 医療法人の経営情報の報告の遵守について
 - 医療経済研究・社会保険福祉協作成りパンフレット「健康食品との上手なつきあい方」の送付について
 - 医師免許を有しない者が行った高密度焦点式超音波を用いた施術について
 - 「情報通信機器（ICT）を利用した死亡診断等ガイドライン」の一部改正について（周知依頼）
 - 「経口抗菌薬の在庫逼迫に伴う協力依頼」について
 - 夏の救急需要ひっ迫を目前に控えた医療機関へのご協力依頼について
 - 令和5年 職場における熱中症の発生状況（確定値）等について
 - 令和6年度児童虐待対応研修【基礎講座第2回】の開催について
 - 医療施設施設整備事業等に係る令和7年度事業計画の調査について
 - 「日医かかりつけ医機能研修制度 令和6年度応用研修会 第1回」【日本医師会より同時中継・動画配信】の開催について
 - 「日医かかりつけ医機能研修制度令和6年度応用研修会第2、3回（Web講習会）」の開催について
 - 「健康スポーツ医学実践講習会」の開催について
 - ダニ媒介感染症に係る注意喚起について
 - 熱中症予防の普及啓発・注意喚起について
 - 令和6年度院内感染対策講習会について
 - 健康食品安全対策委員会（プロジェクト）報告書の送付について
 - 2024年度「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金運動に対する協力について（依頼）
 - 劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）について
 - 日本医師会「オンライン診療についての事例ご報告」へのご協力について
 - 令和6年度「愛の血液助け合い運動」の実施について
 - 東京都医師会 精神保健医療福祉委員会「精神障害・知的障害等にも対応した地域包括ケアシステムにおける精神科医と一般診療科医の連携に関するアンケート調査」ご協力をお願い
 - 組換え沈降B型肝炎ワクチン（酵母由来）「ビームゲン注」の限定出荷の解除について
 - 厚生労働省「オンライン診療の利用手順の手引書」等並びに総務省「遠隔医療モデル参考書-オンライン診療版-改訂版」について
 - 医療機関受診勧奨通知（健診異常値放置）の送付に伴う事業の周知について
 - 世界禁煙デー東京タワーライトアップイベントに関する採録記事並びに動画掲載のお知らせ
 - 麻しん（はしか）の発生について
 - 中医協答申書について（医療DXに係る診療報酬上の評価の取扱いについて）
 - 日本銀行より贈呈された新千円札展示について
 - 感染症免疫学的検査の取扱いについて
 - 令和6年度東京都認知症サポート医等フォローアップ研修の実施について
 - 夏季の省エネルギーの取組について（周知依頼）
 - 「東京都がん対策推進計画（第三次改定）」の送付について
 - 令和6年度児童虐待対応研修【専門講座第1回】の開催について
 - 令和6年度の医師会関連委託事業の委託単価等について（新型コロナウイルスワクチンの定期予防接種単価について）
 - 長期収載品の処方等又は調剤に係る選定療養に関する取扱いについて
 - 令和6年度東京都医療機関デジタル化推進セミナー（基礎編）の開催について
 - 熱中症予防の普及啓発・注意喚起について（再周知依頼）
 - 施設基準の届出状況等の報告について

- 東京都医師会救急委員会アンケート調査の実施について
- オンラインによる返戻再請求(紙返戻終了)について
- 令和6年度介護報酬改定等における高齢者施設等と医療機関との連携等に係る内容の周知及び協力について
- 令和6年度医療措置協定締結に係る御案内(診療所)について
- 令和6年度東京都医療機関デジタル化推進セミナー(第1回応用編)の開催について
- 令和6年10月からのオンライン請求医療機関への返戻レセプト等の紙送付廃止に係る周知について
- 東京都在宅医療ハラスメント相談窓口の開設について
- ヒアりに刺された場合の医療的留意事項について(再周知)
- 妊産婦の劇症型A群溶連菌(GAS)感染症罹患の注意喚起について
- 第7期「東京在宅医療塾」開講に伴う受講者募集のお知らせ
- ヒアリングフレイル啓発のチラシ周知のお願いについて
- ひきこもり支援に関するリーフレットの送付について
- 「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)診療の手引き2024年版」等の周知について
- 「かかりつけ医から専門医・専門医療機関

- への紹介基準」(日本腎臓学会作成 日本医師会監修)の更新について
- 厚生労働省委託事業「医療・介護・保育分野における有料職業紹介『適正認定事業者』のサービス品質に関する調査」へのご協力のお願について
- 令和6年度第1回難病医療ネットワーク医療従事者向け研修の実施について
- 令和6年度「第1回在宅歯科医療研修会」開催のお知らせ
- 日本医師会「地域に根ざした医師会活動プロジェクト」第3回シンポジウムの開催について
- 医療事故情報収集等事業「医療安全情報No.212」の提供について
- 医療機関等におけるサイバーセキュリティ対策の取組みについて
- HPVワクチンのキャッチアップ接種に関する啓発資料について
- 手足口病に関する注意喚起について
- 食中毒の発生について
- 令和6年度医療従事者向け講習会における周知について
- 利用検査会社に関するアンケート調査の実施について(協力依頼)(再通知)
- 令和6年度第3回東京JMAT研修会の開催について
- 令和6年度東京都立学校産業医研修会(第2回)の開催について

医師会の動き

	令和6年8月20日現在		
医療機関数	190	病院	27
		医院・診療所	163
会員数	501	正会員	208
		準会員	293

会議

7月9日	第1回ICTシステム整備委員会兼にしたまICT医療ネットワーク協議会
9日	定例理事会
11日	西多摩医療提供体制懇話会
12日	在宅医療推進強化事業会議
18日	在宅難病調整委員会

23日	移動理事会、新旧役員懇親会
25日	在宅難病訪問診療(青梅市)
8月5日	在宅医療委員会
6日	都民ファースト議員と医師会員との医療政策意見交換会
8日	第2回西多摩地域糖尿病医療連携検討会
22日	学術部会
23日	広報部会(会報編集)
29日	学校医部会

講演会・その他

7月9日	医療保険委員会(整備会)
10日	西多摩医師会互助会“納涼の夕べ”

- 25日 西多摩医師会館「糖尿病教室」「個別栄養相談」
講義1:「糖尿病とは」樋口クリニック 樋口正憲先生
講義2:「糖尿病の食事入門」
公立福生病院 中出直子栄養士
栄養相談:木下栄養士(市立青梅総合医療センター)阿部栄養士(羽村三慶病院)
- 28日 東京都医師会・西多摩医師会産業医研修会
(1)心理的負荷による精神障害の労災認定基準の改正
労働コンサルタント事務所オークス 所長 竹田 透 先生
(2)治療と仕事の両立支援
同上
(3)職場巡視の実際
株式会社日立製作所 日立健康管理センター 中谷 敦 先生
(4)職場のメンタルヘルス対策
-事例検討-
産業医科大学 産業生態科学研究所 保健管理学研究室 日比野 浩之 先生
(5)食生活習慣におけるチェックと職場での指導ポイント
認定栄養ケア・ステーション和所澤 和代 先生
- 8月7日 学術Web講演会
『JAK阻害剤を考える会 in 青梅』
【テーマ】潰瘍性大腸炎におけるJAK阻害剤の治療戦略
〈特別講演〉
演題:「これからの潰瘍性大腸炎治療～JAK阻害剤のポジショニングを再考する～」
演者:日立総合病院 消化器内科 筑波大学附属病院 日立社会連携教育研究センター 筑波大学医学医療系 消化器内科 診療講師 越智 正憲 先生
〈Interactive Session〉
演題:「ジセラカの適格症例を考える」
- 8日 医療保険委員会(整備会)
- 22日 西多摩医師会館「糖尿病教室」「個別栄養相談」
講義1:「糖尿病(耐糖能異常)と薬」西多摩薬剤師会 大戸規彰 先生
講義2:「糖質のとり方について考えましょう」大聖病院 小松丈博 栄養士
栄養相談:木下栄養士(市立青梅総合医療センター)阿部栄養士(羽村三慶病院)
- 31日 学術講演会
『西多摩栄養治療研究会』
〈オープニング〉
演題:「高齢化社会とフレイルについて」
演者:西多摩医師会 会長・進藤 医院 院長 進藤 幸雄 先生
〈特別講演〉
演題:「改めて見直そう!超高齢社会での栄養スクリーニングと評価について」
演者:目白第二病院 副院長 水野 英彰 先生
- 役員出張**
- 7月4日 地区医師会タバコ対策担当理事連絡会
- 9日 多摩医学会役員会
- 13日 西多摩三師会令和6年度総会・講演会
- 18日 令和6年度西多摩地域保健医療協議会
- 18日 第8回TMA医療会議
- 19日 地区医師会長連絡協議会
- 19日 多摩ブロック会長連絡協議会・新旧会長顔合わせ会
- 24日 C型肝炎地域医療連携パス協議会
- 25日 令和6年度第1回東京都地域医療構想調整会議
- 26日 新会員情報システム(MAMIS)説明会
- 8月26日 生活保護法指定医療機関指導立会

【入会会員】(正会員)

氏名 田中 裕志
勤務先 (医社) 純正会 青梅東部病院
出身校 帝京大学 平成9年3月卒

氏名 森 俊幸
勤務先 (医社) 幹人会 菜の花クリニック
出身校 東北大学 昭和55年3月卒

氏名 武井 理子
勤務先 (医社) 幹人会 介護老人保健施設
菜の花
出身校 旭川医科大学 昭和63年3月卒

氏名 武井 正美
勤務先 公立阿伎留医療センター
出身校 日本大学 昭和55年3月卒

【退会会員】(正会員)

氏名 赤松 智孝
勤務先 (医社) 純正会 青梅東部病院

氏名 宮元 周作
勤務先 (医社) 幹人会 菜の花クリニック

氏名 橋本 英洋
勤務先 (医社) 幹人会 介護老人保健施設
菜の花

氏名 根東 義明
勤務先 公立阿伎留医療センター

氏名 奥井 重徳
勤務先 (医社) 久遠会 みずほ病院

【入会会員】(準会員)

氏名 山口 大貴
勤務先 (医社) 悦伝会 目白第二病院
出身校 杏林大学 令和3年3月卒

氏名 山口 高史
勤務先 (医社) 悦伝会 目白第二病院
出身校 杏林大学 平成11年3月卒

氏名 根東 義明
勤務先 公立阿伎留医療センター
出身校 東北大学 昭和56年3月卒

氏名 増尾 有紀
勤務先 公立阿伎留医療センター
出身校 日本大学 平成25年3月卒

【退会会員】(準会員)

氏名 根田 知明
勤務先 (医社) 悦伝会 目白第二病院

氏名 堀合 真市
勤務先 (医社) 悦伝会 目白第二病院

氏名 河西 克介
勤務先 市立青梅総合医療センター

氏名 初澤 紘生
勤務先 市立青梅総合医療センター

氏名 矢部 顕人
勤務先 市立青梅総合医療センター

氏名 小林 俊之
勤務先 奥多摩病院

氏名 岩井 美和
勤務先 (医財) 良心会 青梅成木台病院

氏名 河西 克介
勤務先 (医社) 久遠会 みずほ病院

氏名 川上 正人
勤務先 (医社) 久遠会 みずほ病院

氏名 竹内 明
勤務先 (医社) 久遠会 みずほ病院

氏名 正木 幸善
勤務先 (医社) 久遠会 みずほ病院

【管理者変更】

(医社) 純正会 青梅東部病院
(新) 田中 裕志
(旧) 赤松 智孝

(医社) 幹人会 菜の花クリニック
(新) 森 俊幸
(旧) 宮元 周作

(医社) 幹人会 介護老人保健施設 菜の花
 (新) 武井 理子
 (旧) 橋本 英洋

【法人代表者変更】
 (医社) 睦和会 下奥多摩医院
 (新) 道佛 晶子
 (旧) 小澤 一彦

公立阿伎留医療センター
 (新) 武井 正美
 (旧) 根東 義明

【会員種別変更】
 氏名 森 俊幸
 勤務先 (医社) 幹人会 菜の花クリニック
 (新) 正会員
 (旧) 準会員

お知らせ

保険請求書類提出締切日

令和6年10月 (9月診療分) **10月9日 (水)** 正午迄
 令和6年11月 (10月診療分) **11月7日 (木)** 正午迄
 (締切日以前の提出も可能です)

法律相談

西多摩医師会顧問弁護士 堀 克己先生による法律相談を
 毎月 **第2木曜日 午後2時** より実施いたします。
 お気軽にご相談ください。

◎相談日 **10月10日 (木)**
11月14日 (木)

◎場 所 西多摩医師会館
 ◎内 容 医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・
 刑事に関するどのようなものでも結構です。
 ◎相談料 無料 (但し相談を超える場合は別途)
 ◎申込方法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。
 (注) 先生の都合で相談日を変更することもあります。

訃報

(廃業準会員) 羽村市 (稲垣整形外科)

院長 **稲垣 壯太郎** 先生 (享年 88 歳)



去る令和6年6月22日 ご逝去されました。
 謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈りいたします。

訃報

羽村市 山口内科クリニック
 院長 山口 賢一郎 先生 御母堂様

山口 清香 様 (96歳)

去る令和6年2月9日 ご逝去されました。
 謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈りいたします。

訃報

あきる野市 葉山医院
 院長 葉山 隆 先生 御母堂様

葉山 勢以子 様 (96歳)

去る令和5年11月25日 ご逝去されました。
 謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈りいたします。

表紙のことば

新執行部集合写真。

前列左より、近藤之暢監事、進藤晃副会長、
進藤幸雄会長、古川朋靖副会長、宮城真理
監事、後列左より湯田淳理事、三ツ汐洋理事、

井上大輔理事、松本学理事、野口修理事、
神應知道理事、高橋有美理事、松村昌治理事。
下線が新任理事・監事。

あ と が き

西多摩医師会報をご覧の皆様、今回も最後まで目を通してくださってありがとうございます。

今回の西多摩医師会のあとがきを担当している新町クリニック神應です。

今この原稿を小学生の次男師匠、三男師匠と一緒に参加したサッカーチームのサッカー合宿の帰りのバスの中で記載しております。

今回の合宿は3度目の参加となりますが、毎年私は自分自身に課題を設け、それを克服するために努力しています。初めて参加した2年前、初日は最下位でしたが、同じチームの三男師匠から「なんでもっと走ってくれないだよ〜!」と大泣きされてしまいました。2日目は体力を振り絞り、頑張って走り、3位に入賞することができましたが、身体は疲れ果て、体力不足を痛感しました。翌年の合宿では、1年間かけて体力づくりに励み、再び3位に入りましたが、初年度よりも成長を感じることができました。そして今年、三度目の参加で初めて師匠たちと別チームになりました。結果は三年連続の3位入賞。体力も少しずつ向上し、身体の負担も少なくなりました。

今年の合宿では、もう少し走れるように1年間かけて身体づくりを取り組もうという意識

でチャレンジしました。昨年も3位に食い込みましたが、個人的には初年度よりも走れて、中学生のチームとサッカーも楽しめるほどに体力をつくることができました。体力としては少しずつバージョンアップでき、身体のダメージも少なくなっており、また来年にと意欲を感じながら、新たな課題として中学生チームとの試合では、小学生が使用している4号球よりも重く、大きく、思った通りのキックができずに恥ずかしい思いをしたため、どうにか取り組んでみたいと考えております。

昨年には、人生100年時代の折り返しである50歳を迎え、人生後半の秋を迎えておりますが、周りはなにかあると歳のせいだと年齢を言い訳にする方々が多い中、決して年齢を理由にしないというマインドに更に磨きをかけていきたいと決心した次第です。

隣に座る三男師匠に「来年も合宿に参加する?」と聞くと、「もちろん!大人になっても参加するよ!」という彼の返答に、私も更にやる気が湧いてきます。

「困ったことは起こらない、自分の機嫌は自分でとる!」をモットーにしている私にとって、師匠たちとのサッカー合宿は人生を楽しむ良いスパイスとなっています。

2024年8月18日 新町クリニック 神應知道

一般社団法人 西多摩医師会

令和6年9月1日発行

会長 進藤幸雄 〒198-0042 東京都青梅市東青梅1-167-12 TEL 0428 (23) 2171・FAX 0428 (24) 1615

会報編集委員会

三ツ汐 洋 菊池 孝 奥村 充 馬場 一徳 小高 哲郎
近藤 之暢 古川 朋靖 神應 知道 中野 和広

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428 (22) 3047・FAX 0428 (22) 9993

生命の輝きをみつめ

“いつの時代も、地域医療とともに”

ひとりひとりの健康で豊かな社会生活を掲げ
地域に根ざした検査所として歩んできました。
高度な技術と最新の設備で地域医療の
さまざまなニーズに対応しています。



登録衛生検査所



株式会社 武蔵臨床検査所

〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢 309-8

TEL ; 04-2964-2621 FAX ; 04-2964-6659

URL ; <http://www.e-musashi.co.jp>

国民の健康と医療の向上をめざす

東京保険医協会

医師会と保険医協会はくるまの両輪です。
医師会の会員の皆様にも保険医協会への入会をおすすめします。

資料請求は
こちらまで!



元西多摩医師会会長 松原 貞一

元西多摩医師会会長 真鍋 勉

減点や返戻等の保険請求対策、年金や休業保障等の多彩な共済制度で
保険医協会はこれからも先生方をサポートして参ります。

〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-7 KDX新宿ビル4F TEL:03-5339-3601
FAX:03-5339-3449 E-mail:info@hokeni.org <http://www.hokeni.org/>

東京保険医協会 検索